



Title	技術報告 : 大型特殊・牽引免許(農耕用に限る)の取得について
Author(s)	河合, 孝雄
Citation	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場技術業務報告, 7, 91-91
Issue Date	2007-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/34528
Type	bulletin (article)
File Information	7_p91.pdf



[Instructions for use](#)

大型特殊・牽引免許（農耕用に限る）の取得について

河合 孝雄

足かけ3年に渡る持ち込み受験も本年度で一応ピリオドとなるため、この間の経過をまとめたい。

はじめに

2004年の法人化に伴い車両の保険対策と同時に、トラクタ運転者の免許資格も話題となり、関係者に調査したところ、多数の未取得が明らかになった。

大学構内は一般に公道とは見なされないが、法人職員としてトラクタ類の運転に関わるからには免許の取得は当然であるとの認識が多勢を占めた。しかし、自動車学校へ入学しての取得には、多額の経費を要し、特に2種類（大型特殊・牽引ともに農耕用教習はないため限定なしとなる）の25万前後の出費が必要となるため実施は不可能となった。

そのため、20年以上も前に行った車両持ち込みによる受験を模索することとなった。

まずはスタンダードで受験用車輛を持ち込んでみたが、試験用車輛条件は想像よりはるかに厳しく、スピードメーター、ルーム・バックミラー（受験者・試験官用）、シートベルトなど多くの対策が余儀なくされたが、なんとか持ち込み受験が可能となった。

その後改めて職場内の取得希望者を募ったところ、大型特殊は取得したが牽引免許はまだ未取得という人も含めてその対象は研究農場のみならず農学研究科にもおよび、運転実習、実験・管理車両の運転に関わる多くの教職員・院生が名乗りを上げた。

また、足かけ3年にわたる期間中、少なくない新規採用者もこれに続いた。

受験への道のり

しかし、その後の受験に向けての朝（6時から8時まで）・夕（17時から19時まで）2時間（有料で貸し出している）のコースでの練習においてもまさに手探り状態で、基本的な走行法は他の教習所の練習車を走行の手本にするなどその苦労は計り知れないものがあった。

ちなみに、他の機関での免許取得情報などを耳にするが、どの例を聞いても教習所の教官に集中的な指導を受けた後受験に望むというごく一般的・合理的な方法であり、現場のような方法は、まさに無謀ともいえるやり方であったと言える。

また、これらの受験に当たって、希望者が多い関係から取得希望者に対して同一資格3回までと受験の挑戦回数を制限した。だが、そんな受験状況の中にあっても、試験官からの指摘を互いに情報交換しながら確かな運転技術と走行術を身につけ、多くの合格者を出すことができた。

結果及び総決算

こうした苦労の連続の中、足かけ3年にわたる免許取得挑戦で大型特殊免許では15件、牽引免許では14件、合計29件の資格取得となった。この中には合わせて9人の一発合格組が含まれている。

このような持ち込み受験は、受験の度に車輛の運搬、練習での指導者対策、受験当日の付き添いなど多くの労力を要したが、反面、に要した取得経費もはるかに安上がりであった。

ちなみに受験に要した金額を試算をしてみると、免許交付費47,850円、受験料25万円弱、コース借用料20万円弱で合計約50万円となる。

自動車学校での取得を1免許10～15万円で試算すると、総額300万円を超える出費となり約6分の1で済んだこととなる。挑戦した皆さんはともかく技術指導他、ご協力頂いた皆さん、大変ご苦労様でした。